

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和6年度 第3回相模原市大規模事業評価委員会		
事務局 (担当課)		経営監理課 電話042-769-9240(直通)		
開催日時		令和7年1月8(水)午前9時～午前10時		
開催場所		相模原市役所本庁舎本館2階 第1特別会議室		
出席者	委員	4人(別紙のとおり)		
	事業所管局	2人(市長公室参事(淵野辺駅南口周辺まちづくり担当)、政策課主査)		
	事務局	4人(総合政策・地方創生担当部長、経営監理課長、同総括副主幹、同主査)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開 会 2 議 事 (1)淵野辺駅南口周辺まちづくり事業について (2)その他 3 閉 会		

審 議 経 過

1 開会

定足数の確認を行い、大規模事業評価委員会を開会した。

2 議事

(1) 淵野辺駅南口周辺まちづくり事業について

傍聴者の確認を行った後、太田市長公室参事より、資料1に基づき自己評価調書に係る補足説明を行い、質疑応答・意見交換を行った。その後、鈴木経営監理課長より、資料2及び3に基づき答申(案)及び審議結果(案)の内容について説明を行い、質疑応答・意見交換を行った。

(以下、質疑応答・意見交換 ○は委員の発言、●は事業所管局及び事務局の発言)

【資料1について】

- 駐車場の台数の妥当性について、検証を行った例はあるか。(小野田会長)
- 検証を行った例はないが、現場の職員へヒアリング調査等を行っており、調査結果と大きく乖離するものではないと考えている。(太田市長公室参事)
- コマ数の計算方法について、資料の数字からは「利用可能コマ数」を導き出すことができないが、どのように計算するとこの数字になるのか確認したい。(奥委員)
- 委員会資料として、計算過程が分かるものを追加でお示ししたい。(太田市長公室参事)

【資料2及び3について】

- 資料3の3ページの2(2)規模の妥当性の記載において、「本事業によって、この地域に人が集まり、淵野辺駅周辺が賑わうことで市全体の価値が上がり、ひいては市民のシビックプライドが上がることにもつながる可能性がある」という表現があるが、まずは「地域のポテンシャルを最大限に引き出す」事業を進めることが先にあって、その後、市全体の価値の向上やシビックプライドの醸成につながるのではないかと。ここで言いたいのは、市全体の延床面積を削減することは理解するものの、この事業についてはその方向性に捉われず、「地域のポテンシャルを最大限に引き出す」ことを意識しながら、市全体としての公共施設の規模の最適化を図るといった考え方になろうかと思うが、そうしたニュアンスが伝わりづらいことから、表現について工夫して欲しい。(奥委員)
- ご意見のとおりであり、表現について修正したいと考えるがいかがか。(鈴木経営監理課長)
- 図書館は比較的広域にサービスを提供する施設か。(吉川副会長)
- 市内には分館を除くと3館あるが、中央区に所在するからといって中央区だけのものではなく、広域的にサービスを提供する施設である。また、今後、淵野辺の図書館については中央図書館機能を備えていくものである。(鈴木経営監理課長)
- 図書館の機能からするとやや広域的だと考えられるが、集約する施設の中には、地元のポテンシャルを高めていく要素が強い施設もある。集約する施設の圏域がそれぞれ

微妙に異なっており、まずは地元のポテンシャルを高め、それが市全体の価値の向上につながるという整理で、修正する方向性で良いと考える。(吉川副会長)

- 資料3の4ページの5(1)コスト及びその内訳の適切性の記載において、「移転、初度調弁等に関する経費も見込まれている」との記載があるが、具体的な数字を確認したい。(奥委員)
- 移転、初度調弁等に関する経費としては、全体で3.9億円を見込んでいる。(太田市長公室参事)
- 図書館については、近隣の実績を参考に積算しているほか、それ以外の施設については公民館の大規模改修の事例を参考に積算している。内訳としては、約3億円が初度調弁に係る費用で、残りは移転や廃棄物の処理に係る費用として見込んでいる。(政策課横溝主査)
- 資料3の5ページの6環境・景観への配慮について、(1)の1段落目と(3)に記載のあるプラス面の効果の一つにまとめた方がすっきりするのではないかと。また、(1)の2段落目については、周辺環境・景観への影響の低減／回避策に資する対策として低層に抑えるということかと思うので、(2)に記載すべき内容と考える。(奥委員)
- 複合施設そのものの景観や色彩、意匠について、しっかりと周辺環境・景観への配慮の中に要素として盛り込んでほしい。また、公園整備において、樹木を間引いたり、新たに植栽を行うなど、周辺植生との調和や生物多様性を考慮しながら進めるといった考え方についても盛り込んでほしい。(奥委員)
- (3)の最後の段落について、この表現では意図が正確に伝わらないのではないかと。表現について工夫した方が良いのではないかと。(奥委員)
- 環境面においてプラスの効果を打ち出すことについては、資料2の答申(案)の付帯意見に盛り込んでも良いのではないかと。(奥委員)
- 複合施設の意匠、デザインに係るご指摘については、今後の検討事項としてご意見としてまとめさせていただきたい。また、植栽に係るご指摘についても前向きなご意見であり、検討事項としてまとめさせていただきたいと考えている。(鈴木経営監理課長)
- プラス面をまとめていく方向で良いか。もしくは、ご指摘のあったデザインや植栽の話を含めまとめて良いかご議論いただきたい。(鈴木経営監理課長)
- 奥委員のイメージとしては、6環境・景観への配慮を一つの付帯意見としてまとめる形か。(小野田会長)
- 環境面でのマイナス影響への低減／回避は当たり前のことであって、むしろこの事業によって、環境や景観がより良いものになっていくということを打ち出し、意識しながら事業を進めて欲しいといった趣旨である。(奥委員)
- プラス面を打ち出していった方が、市として事業も進めやすくなるほか、市民の心配も減るのではないかと。付加価値も付くものと考え。(吉川副会長)
- そうした方向性でまとめていきたい。(鈴木経営監理課長)
- (3)の最後の段落については、再生可能エネルギー利用設備は何を入れるのか。公共施設においては、太陽光や蓄電池を導入しますといった時にその分余計なスペースが必要になるが、蓄電池であれば、停電してもどの程度持つような容量にするといった

ことを先に決めておかないと、後からでは設置できなくなることがある。建物を建てる際に、ある程度インフラ側の話も考慮しておかないとコストパフォーマンスが悪いものになる恐れがあるといった趣旨の内容である。(小野田会長)

- 奥委員のご指摘のとおり、この表現では分かりづらい部分がある。例えば「あらかじめ「事業の前提となる」実施水準をきちんと整理」といった表現ではいかがか。建築や設計の立場からすると、急に蓄電池などインフラの話の後出しされると困るといった趣旨であり、そうしたニュアンスや危機感が伝わるよう、あらかじめ「事業の前提となる」実施水準をきちんと整理することといった形で補足すれば良いのではないか。(吉川副会長)
- ご意見のとおり、表現について補足させていただく。(鈴木経営監理課長)
- (1)の案内板の記載は理解できるがここだけ具体的すぎる印象があり、もっと大きな視点で記載しても良いのではないか。(小野田会長)
- (2)のマイナス影響の低減/回避策については、自己評価調書において「騒音・振動への対応」、「交通対策」、「光害」についての記載があることから、むしろ(2)をもっと丁寧に書いた方が良いのではないか。(奥委員)
- ご意見のとおり、環境面の部分については、丁寧に記載していた方が、事業を進める際にも地元の方々に安心感を持ってもらえるのではないか。(吉川副会長)
- 樹木に係る意見に関しては、資料3の4ページの3(1)に「樹木の巨木化」という課題が記載されていることから、これが良くなった際にどのように変わっていくのかといったキーワードを入れられると、意図が伝わりやすくなるのではないか。(小野田会長)
- 資料3の4ページの5(1)コスト及びその内訳の適切性について、今後の建設費そのものの高騰など読めない部分があるので、委員会としては、あくまで現時点における積算やその内訳は適切だといったニュアンスをもっと出して欲しい。(小野田会長)
- 事業費の積算について、80年間という期間で算出しているが、資料3の4ページの3(1)事業着手時期の適切性に係る記載の中で、今回、公共施設について築40年で建て替えるということだが、80年との差についてどのように説明するか。(碓井委員)
- 元々、公共施設については60年維持しようといった考え方であったが、一般公共建築物長寿命化計画に基づき、20年ごとに改修しながら80年維持しようといった考え方に変わってきたところである。また、大きな施設の大規模改修を検討する際には、合わせて周辺の施設についても複合化を含めて施設の在り方を検討することとなっている。今回集約する施設は、まだ築60年に達していないが、実際にはこれまで大規模な改修ができておらず、このまま60年維持するのは難しく、また、市の財政的にも施設を現状のまま維持していくことが難しいことから、集約・複合化する方向で進めているものである。(政策課横溝主査)
- 資料3の3ページの2(1)整備手法の妥当性について、DBOを基本とした自己評価調になっていたが、最近、総合評価でDBOを進めようとする、様々な機能を盛り込んだ方が事業者として選定される可能性が高まることから、それが結果的に高コスト構造になりがちである。最近では、ECI方式で設計前に民間事業者と手を組んで仕様を検討していくといったやり方も進んできている。官と民がお互いどのように歩み寄るかとい

たことを進めないと、再生可能エネルギーの導入もどんどん高額な方向に進んでいってしまうことから、DBO方式決め打ちではなく、いくつか選択肢を持っていた方が望ましい。それをどういったアプローチで進めるかといったことは今後精査して欲しい。(小野田会長)

- 今回の案件については、このままの書式で良いが、奥委員からご指摘があったように、資料3の5ページの6(1)、(2)、(3)の使い分けが分かりづらい。事務局としてまとめづらい部分は、自己評価調書の書式に課題があるものと思われる。今回も一部書式の変更がされているが、今回でより書式についての課題がはっきり見えたかと思うので、次回以降、書式の更新について検討して欲しい。(吉川副会長)

(2)その他

本日の議論の結果を踏まえ、答申(案)及び審議結果(案)について事務局にて修正を行い、その内容をメールで委員の皆様を確認依頼させていただきたい旨説明した。また、最終的には会長に確認いただいた上で、確定とさせていただく旨説明し、近々、会長から市長あてに答申をいただきたい旨説明した。

3 閉会

全ての審議が終了し、閉会した。

令和6年度第3回相模原市大規模事業評価委員会 委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠席
1	碓井 敦子	公認会計士		出席
2	奥 真美	東京都立大学 都市環境学部 都市政策科学科 教授		出席
3	小野田 弘士	早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 教授	会 長	出席
4	堀内 勉	ものづくり大学 技能工芸学部 情報メカトロニクス学科 教授		欠席
5	吉川 徹	東京都立大学大学院 都市環境科学研究科 建築学域 教授	副会長	出席